

戦略2. 競技スポーツの推進

施策3. 競技スポーツの環境づくり

カーリング、サッカー、スピードスケート、柔道といった競技スポーツにおける本市の選手の活躍は目覚ましいものがあり、オリンピックや世界選手権、全国・全道規模の大会に多くの選手が出場し、活躍しています。このことは、選手を応援する市民に夢や希望を与えるとともに、スポーツ活動に対する興味や意欲を高め、競技人口の拡大につながると考えられます。

将来に向けて、ジュニア期からの人材発掘や育成をスポーツ団体、各競技協会と連携・協力し、競技力の向上を図ります。

(1) スポーツ団体との連携・協力

北見市体育協会と連携し、スポーツリーダーの養成やスポーツ少年団の育成・強化に努め、競技人口の底辺拡大を図るとともに、全国・国際大会への派遣補助などにより、よりレベルの高い競技者の育成を図ります。

- スポーツ少年団の支援
- 全道・全国等大会への派遣支援

(2) 運動部活動の活性化・支援

スポーツに興味と関心を持つ生徒によって自主的に行われる運動部活動は、より高い水準の技能や記録に挑戦する中で、スポーツの楽しさや喜びを味わい、豊かな学校生活を経験することができる教育活動の一環として中・高校生に親しまれています。

学校や地域、保護者との連携を深め、生徒一人ひとりの個性や主体性を大切に、担当教職員の負担にも配慮しながら、活動内容の充実と競技力の向上を図ります。

- 生徒の主体性を尊重した指導の充実
- スポーツ医科学に基づく安全で効果的な指導による競技力向上を推進
- 指導者の資質向上や地域の優れた指導者の活用

(3) 指導者の養成・確保

将来に向けて競技力の向上を図っていくためには、ジュニア期からの人材発掘や育成を各競技団体と連携する必要があります。

そのため競技者の能力を将来にわたって適切に伸ばすための継続的な指導が行える環境をつくります。

- 指導者間の連携と交流の推進
- 優れた素質を有する競技者をより高いレベルへと育成する一貫した指導システムの構築

(4) カーリングの拠点としての競技力向上

過去6回の冬季オリンピックに男女合わせて17人の選手を輩出している日本カーリングの拠点として、後継者の育成のためジュニア教室を開催し、低年齢層の育成・強化を図ります。また、さらに高いレベルの練習や試合を身近に観る機会を提供できるよう合宿の受け入れ、各種大会誘致や開催支援を行います。

- 国内におけるカーリングの拠点としての全国アピール
- ジュニアカーリング教室の実施
→ 北海道タレントアスリート発掘・育成事業との連携
- 北見工業大学内「冬季スポーツ科学研究推進センター」との連携

施策4. スポーツ合宿の推進

スポーツ合宿事業は現在、多種目・通年化をキーワードにさまざまな種目の合宿を誘致し、市民との交流の中から地域の活性化やスポーツツーリズム*推進の中核をなす事業として定着しています。

今後も引き続き、地域の関係業界やスポーツ団体と連携し、ラグビーをはじめとしたスポーツ合宿を積極的に誘致し、地域経済の活性化を図るとともに、合宿チームによるスポーツ教室の実施などトップレベルのチーム、アスリートに接する機会の創出と受け入れ環境を充実させます。

(1) 受け入れの基本方針

① スポーツ振興

国内の第一線で活躍するトップアスリートの練習などを間近で「見て・触れて・感じる」機会を提供するほか、直接、指導を受ける場を設けることにより、地元の指導者・選手の指導力・技術力を高めます。

- トップチームによる教室・クリニックの開催

② 多種目・通年化

ラグビー・陸上合宿のピークシーズン（7月中旬～8月）以外の期間において、バスケット、バレー、カーリング、自転車、武道などの受け入れに向けた誘致活動を強化し、幅広く地元スポーツの競技力向上と地域経済の活性化を図ります。

③ 広域連携

近隣市町との連携を図り、オホーツク圏域全体としての合宿受け入れ環境を整え、より魅力ある「スポーツ合宿の里きたみ」としての飛躍を図ります。

- オホーツク・スポーツ合宿に係る地域連携協議会との共同プロモーション活動
- ラグビーフェスティバルの連携開催

(2) 広報活動の充実、情報発信・プロモーションの強化

北見市の魅力（合宿施設・受け入れ体制・観光資源）を外部に発信するために、ホームページ・Facebookの活用、動画配信などインターネット媒体を利用したプロモーション強化を図ります。

- Facebook = 「いいね！」 「シェア！」による情報拡散で世界へPR
- 動画配信 = 合宿情報とトレーニング風景、北見市の魅力などをYouTubeでPR